

令和6年&7年度

訪ねたくなる水源の森・里づくり
(松山市日浦地区)

令和7年度愛媛県「三浦保」愛基金成果発表会

令和7年11月3日(月・祝)

NPO法人森からつづく道

◆団体の目的、成り立ち

愛媛県の生物多様性
の保全が目的

- 2013年4月設立
- 2019年6月にNPO法人化

植物、昆虫、両生類、鳥類などの研究・調査をしている専門家、自然観察指導員、森林インストラクターなどが構成員



「森からつづく道」は、
自然に関する調査・研究ならびに情報発信を行うとともに
自然に触れる体験の場を提供することにより、自然に興味を持ち、
保全に関わる人を増やし、自然と人の暮らしとの豊かなつながりを
次世代に継承していくことを目的に、2013年4月に発足したNPOです。

■事業申請の背景、目的・ねらい

【課題】県民が森林や里地の保全に関われる機会が少ない

〈松山市日浦地区〉

【保全すべき自然環境】

- ★石手川ダム水源の森
- ★希少なヒメユリの自生
- ★水生生物の生息 等

環境学習・体験の適地

里地～里山～森林の整備に県民が関わる
プロジェクト

里地・里山・森林の多面的機能を
体感、手ごたえ

保全活動の広がり

■ 事業内容

	R6年度	R7年度
(1)ヒメユリ保全活動	【1年目】種まき～育苗～球根越冬	【2年目】育苗～球根越冬 【1年目】種まき～育苗～球根越冬 ※日浦公民館の活動として提案
(2)ミツマタ植林	●耕作放棄地に12株植林	●草刈り等植林地の整備 ●8株植林(11/11) ※「里山ひうら」の散策道整備と連動
(3)石手川上流域 川の生きもの調査	●川の生きもの観察会・調査 (8/24)	●川の生きもの調査(8/29) ●ミニ図鑑の作成
(4)学びの機会づくり	●学習会「森林のリアルとポテンシャル」実施(12/8)	●水源の森エコツアーの開催(11/16)
(5)先進地視察		●(特非)ひろしま自然学校 および、 (特非)西中国山地自然史研究会の活動、 フィールドを視察(9/6～7)

(I) ヒメユリ保全活動

ヒメユリ

Lilium concolor Salisb. 【ユリ科】



- 松山市カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)
- 愛媛県カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)
- 環境省カテゴリー
絶滅危惧IB類(EN)

【特徴/生育地】

山地の草地や疎林内に生育する多年草。夏に茎の先に、2~3個の径3~4cmの花を上向きにつける。花被片は朱赤色で濃色の斑点があり、星状に開出し先端は外側に反る。

【分布】

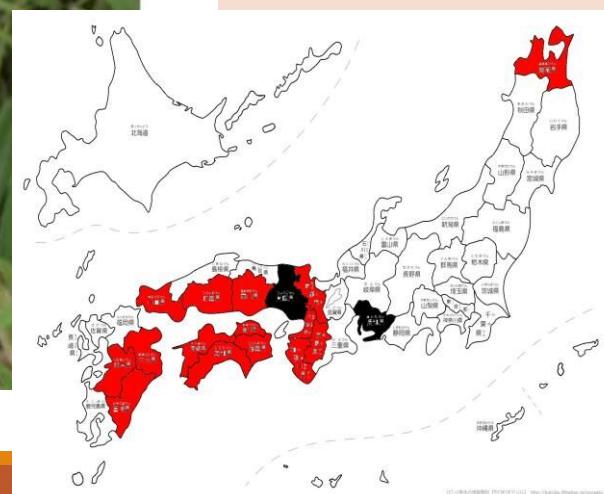
県内:松山市、久万高原町、西予市。

県外:本州(東北地方南部以南)、四国、九州
朝鮮半島、中国大陸、アムール

【レッドリスト選定理由】

久万高原町と西予市の4ヶ所で確認されたが、松山市では現時点で自生が確認が難しくなっている。園芸採取や草地開発や遷移進行により急減している。

(愛媛県レッドデータブックより)



〈絶滅危険性ランク〉

- 絶滅
- 絶滅危惧1類
- 絶滅危惧2類
- 準絶滅危惧種
- 情報不足

全国的にも
絶滅の危険
が高まって
いる!

(I)ヒメユリ保全活動

■令和6年度成果

【松山市日浦地区】

- ・ヒメユリの自生地であり、地域のシンボル。
- ・日浦中学校が中心に保全活動に取り組むが、栽培ノウハウの引継ぎが難しく、個体数が減少。
⇒学校のみでなく、地域で保全を担う体制へ！

- ①ヒメユリ播種～育苗 1年生苗を確保。日浦中学校:15株、里山ひうら:45株。
- ②日浦中学校、里山ひうら、森からつづく道が連携して取り組み、ノウハウ共有。
- ③ヒメユリ育苗1年目 ノウハウの獲得、とりまとめてマニュアル作成。

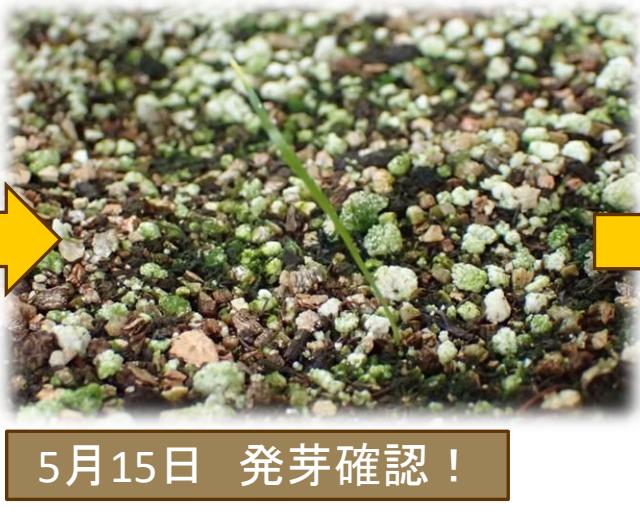
■令和7年度事業

- ①ヒメユリ播種～育苗に、R6年度と同程度の規模で取り組む。
- ②昨年度育苗したヒメユリ1年生の苗を栽培し、球根を充実させ、R8年度の開花を目指す。
- ③育苗の担い手を増やすことをを目指し、日浦公民館との連携を提案する。
- ④2年目の苗の栽培ノウハウを獲得し、とりまとめてマニュアルに加筆する。

(I) ヒメユリ保全活動

■令和7年度スケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年目（本年播種）の苗			●種まき		●鉢へ植え替え、施肥 ●自動灌水装置＆寒冷紗設置							
					●自動灌水装置＆寒冷紗除去					●鉢にもみ殻敷設		
				★発芽・1枚葉	★葉が2～3枚					★地上部消滅		
2年目（昨年播種）の苗					●自動灌水装置＆寒冷紗設置 ●自動灌水装置＆寒冷紗除去					●鉢にもみ殻敷設		
					★発芽～茎が立ち上がる	★茎の長さ・葉の枚数等成長を記録				★地上部消滅		
その他事項			●日浦公民館栽培活動検討				●四国カルスト自生地種採取 ●日浦中：地植え地検討、整備 ●栽培マニュアルに2年目苗栽培ノウハウ追記					



R6年度





R7年度



6月27日確認	
【2年目苗】	
■ 茎が伸びた苗	11
■ うち、開花	9
■ 茎が伸びない苗	12
【1年目苗】	
■ 発芽	120

R7年度



10月23日 タネ、球根の状態

10月23日苗の状況確認(日浦中学校)

【2年目苗】

■ 茎が伸びた苗 11

うち大きな鉢に移植 5

うち地植え 6

■ 茎が伸びない株 → 地植え 4

(地上部に葉のあるもの)

【1年目苗】(地上部に葉のあるもの)

■ 鉢に移植 95 ■ 地植え 15

苗が順調に生育、
ノウハウが蓄積

現時点での成果

①【ヒメユリ2年目苗】

日浦中学校15、里山ひうら28、合計43

【ヒメユリ1年目苗】

日浦中学校110、里山ひうら72、合計182

【ヒメユリのタネ(さや)】

日浦中学校7、里山ひうら3、合計10

②日浦中学校の先生2名と相談しながら対応。

2年目苗の開花があり、栽培の意欲アップ!

③里山ひうらの声かけて、ヒメユリクラブが発足

(2) ミツマタ植林

■ 令和6年度成果

- ①耕作放棄畠に12本(0.3m:8本、0.8m:4本)植樹。
- ②植樹にあたり、森林整備の考え方と竹林拡大防止について講師を招聘して学習(11/12)
- ③植樹したミツマタが3月下旬~4月上旬開花。



- ・比較的照度が低くてOK
- ・早春の花がキレイ
- ・シカの食害がない
- ・和紙の材料となる



(2) ミツマタ植林

■ 令和7年度事業

- ①植樹した畠の草刈り。
- ②0.8m:8本を11/11に植樹。
- ③同日、樹木医の方を招き、植栽やせん定のアドバイスを
いただく。里山整備の方向性を参加者で意見交換する。
- ④「里山ひうら」が散策道整備を計画しているので、その
ルートに加えてもらい、地域内外の人に知ってもらう。



(3) 石手川上流域 川の生きもの調査

■ 令和6年度成果



- ①8/24「川の生きもの観察会」を実施。
参加者27名。
- ②カゲロウ類、トンボ類の幼虫、魚類など、
22種を確認。
- ③指標生物判定で水質が「とても良好」を
確認。
- ④日浦公民館、東川町の協力をいたいた。

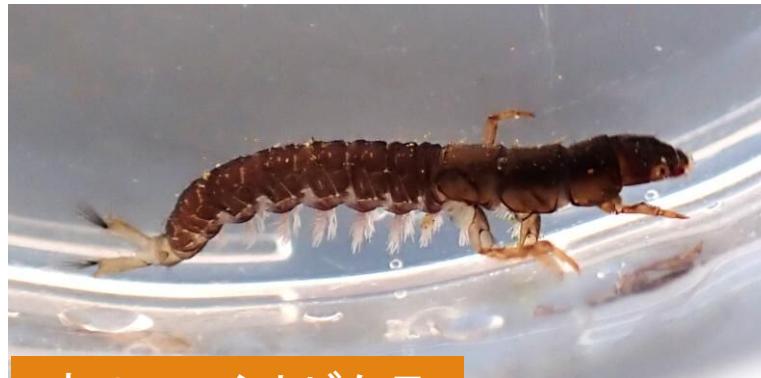


(3) 石手川上流域 川の生きもの調査

■ 令和7年度事業

- ①川の生きものの調査を昨年と同地点で8/29実施。
- ②専門家の協力を得て調査、同定。34種確認。
指標生物判定で水質が「良好」。
- ③石手川上流域 川の生きものミニ図鑑を制作中。

【体裁】
・A3両面カラー
両面印刷
・8つ折り→両面
で15種類掲載
+表紙



ウルマーシトビケラ



オオヤマカワゲラ属の1種



コヤマトンボ



オニヤンマ



ヘビトンボ



ヒメガムシ



ヒラタカゲロウ属の1種



ナベブタムシ

(4) 学びの機会づくり

■ 令和6年度成果

- ① 12/8 学習会「森林のリアルとポテンシャル」を開催。
- ② 県内各所の森林の活用に関心のある34名が参加。
- ③ 森林整備・活用を地域活性化につなげる知見を共有。



■ 講演

「愛媛の森をみんなで
モリアゲよう！」

長野麻子さん（株式会社モリアゲ代表）

■ 事例報告

「伐採から製材、建築へ
山から生み出す新たな流れ」

森本英章さん

（杣-woods（ソマウ兹）代表、木こり）

■ 意見交換・交流

(4) 学びの機会づくり

■ 令和7年度事業

- ① 11/16 「水源の森の巨樹を訪ねるエコツアー」を企画。
- ② 日浦地区いずれも松山市天然記念物に指定されている巨樹、アカガシ（川の郷町）と三本杉（福見川町）を訪れ、水源の森を擁する地域での滞在を楽しむ。
- ③ 地域の方にも案内にご協力いただく。

【プログラム】

- 9:00 集合：日浦公民館
- 川の郷町 アカガシへの登山
□ ヘ移動
- ◆ アカガシを目指して登山
- 下山して「せせらぎ亭」へ
移動
- ◆ 「せせらぎ亭」にて昼食、休憩
- 新宮神社の三本杉へ徒歩で
移動
- ◆ 三本杉を訪問
- 14:30 「せせらぎ亭」駐車場
振り返りの後、解散



(5) 先進地視察

【実施日】令和7年9月6日(土)・7日(日)

【視察先】広島県北広島町

①芸北高原の自然館(運営:NPO法人西中国山地自然史研究会)、八幡湿原

②NPO法人ひろしま自然学校

【参加者】当団体メンバー8人、「里山ひうら」1人

【ねらい】

・日浦地区における将来的な自然環境保全と環境教育の機会創出について、ビジョンを描くために参考となる事例を、構成員が現場で見て共有する。

・地区外からの参加者を獲得し、交流人口拡大につなげるために、地域資源を活用したどのような機会づくりがあるとよいか、具体例を知る。など

原生的なブナ林や八幡湿原、半自然草原などがもたらす豊かな自然環境の保全を目的に、教育事業・調査研究事業・保全事業などを実施。

20年間整備・保全する里山をフィールドに、森のフリースクール、生物調査・泊2日講座など、持続可能な社会づくりのための人材育成を目指すプログラムを展開。



(5) 先進地視察

NPO法人西中国山地自然史研究会の皆さんにご案内いただき、八幡湿原を散策。自然再生協議会の活動による湿原保全の状況も見学。



NPO法人ひろしま自然学校の週末里山ボランティア活動「昆虫調査と森の整備」に参加。活動のフィールドは環境省「自然共生サイト」に認定されています。

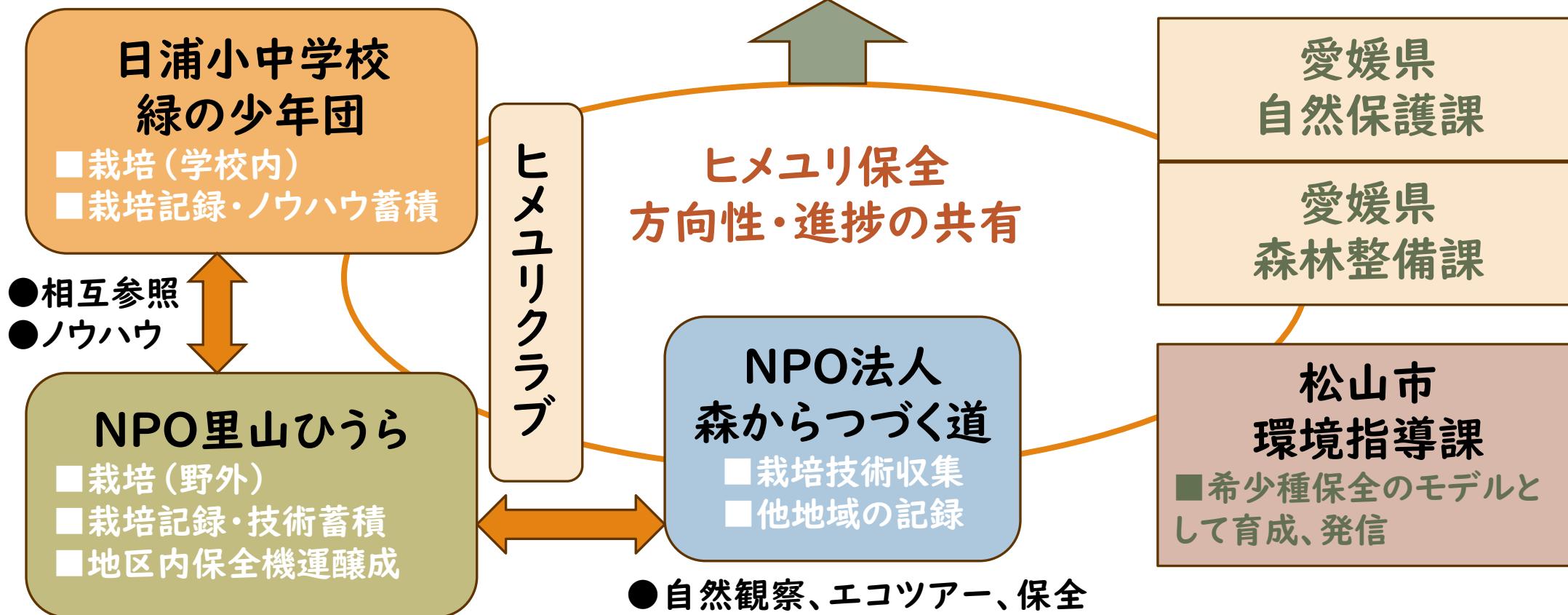


NPO法人ひろしま自然学校では、宿泊・食事もさせてもらいました!



■実施体制

森林保全の在り方の模索
訪ねたくなる景観・自然資源の魅力発掘、活用



■ 中長期で到達したい 状況のイメージ



- ヒメユリ保全ノウハウ確立、記録作成、体制づくり
- 自然資源: 石手川上流域、水生生物、巨樹、里地・里山などを活用した体験プログラムにチャレンジ

- 水源の森を擁し、人の手が適正に入った心地良い自然と共生できる地域としてのイメージが定着・向上。
- 環境教育・自然体験のフィールドになり、関係人口が増え、地域が元気に。

- 森林や里地・里山の整備・保全に外部の人が関わる仕組みづくりが進む。
- 県民が森林や里地・里山の多面的機能に関心を高め、保全活動が広がる。関わる人のウェルビーイングになる。

- ヒメユリが、日浦小中学校と地域の方々によって安定的に保全される。
- 里地・里山の整備が進み、里地の散策や体験が年間を通して行われる。